

2021年CEOメッセージ

2020年は新型コロナウイルスの感染拡大により、世界経済や社会生活に大きな衝撃を与える1年でした。

こうした中で、各国政府や中央銀行は大幅な金融緩和ならびに財政出動を実施し、世界中でマネーストックが大きく膨らみました。米国株式市場では、新型コロナウイルス感染拡大の抑制を目的としたロックダウンが経済に大打撃をもたらす中、株価は3月に急落したものの、その後持ち直す展開が続き、S&P500は3月下旬の安値から66%強上昇。ナスダックは2009年以降で最大の上昇となりました。

東京株式市場においても2020年12月30日の大納会で、日経平均株価は2万7,444円17銭となり、バブル経済の最盛期だった1989年(3万8,915円87銭)以来、31年ぶりの高値を付けました。

2021年において、コロナの収束が見えるまで、政治経済とも不安定な状況が続くものと見ております。マイナス要因として①新型コロナウイルスの影響による経済の損失拡大②国の赤字財政拡大③实体经济を伴わない株式市場のバブル様相④東京オリンピックの行方⑤サービス産業の低迷⑥医療崩壊などがあげられます。一方プラス要因としては①デジタル経済の推進によるビジネスチャンス②企業のイノベーションによる進化③業界再編で生まれる新業界④ITベンチャーの躍進チャンスなどがあげられますが、このような状況下ほど、企業の優劣の差が鮮明になる重要な年だと考えております。

当社はファイナンシャル事業会社として、投資銀行部門では新興市場を中心に上場企業向けコーポレートファイナンス並びに成長戦略支援に重点を置き、コロナ禍での企業を支援するための施策に取り組んでまいります。また、証券部門及びアセットマネジメント部門では投資家向け投資ファンド事業の拡大に推進に注力してまいります。

2021年1月

代表取締役会長 兼 CEO 竹井博康